



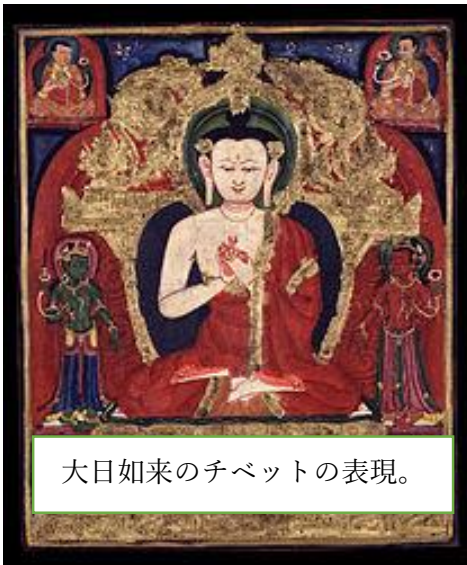
菅生学園初等学校だより

2022年度6月号
校長室だより

無我無畏（むがむい）（大日経）

先日アメリカのバイデン大統領の訪日があり、その際の台湾の有事について今までのアメリカ大統領よりも踏み込んだ発言があり少々驚きました。北朝鮮のミサイル発射。そして相変わらず、ウクライナ情勢は終結には程遠い状況です。どう考えても北朝鮮の行動やロシアの言い分を理解できないのは私だけでしょうか？そこには、「我」という存在が強く出ているような気がします。

人は誰しも自分中心に物事を考えがちです。それぞれの意見や考えがあって良いのですが、これまでの人生経験から、この「我」が周囲との軋轢を生む源のように感じます。「我」が周囲と調和がとれている時は問題ありません。ひとたびそれが乱れると厄介なことになるようです。自分の意見が通らない時に言う「不平」、自分は悪くないと思う「逃避」、自己の過大評価により生じる「欲求不満」、自己の過小評価が故の「不安」、その他「疎外感」などは周囲との尺度のちがいで生じるものなのかもしれません。これらは総じて「畏れ」と称されるものです。



大日如来のチベットの表現。

これらの「畏れ」を無くすには、その源である「我」を無くせば良いのではないのでしょうか。「我」が無くなれば、それぞれの「畏れ」は無くなるのが道理です。そのような状態を表した言葉が「無我無畏」です。「『我』から解放されれば、『畏れ』はなくなる。」という意味です。これは、「大日経」にある言葉だそうです。「大日経」とは真言密教の根本経典で、大日如来の説法を集めたもの。大毘盧遮那 成仏神変加持経（だいびるしゃなじょうぶつじんべんかじきょう）とも言うそうです。

自分の意見や考えを持つことはとても大切です。しかし、それがすべて正しいとは限りません。そのような思い込みは危険です。無知による見落としや勘違いもあるかもしれません。一度「我」を捨てて他人の考えや意見に丁寧に耳を傾けてみませんか。そうすれば新たな視点や見落としに気づくかもしれません。

ロシアとウクライナの問題も同様でしょう。プーチン氏としての言い分もあるのでしょう。しかし、どう考えても私は「違和感」を感じます。一度これまでのことはリセットして、「我」を捨てて話し合ってみませんか？新たな解決策も見つかるかもしれません。そんなことを考えてしまう今日この頃です。ウクライナに一日も早く平穏な日々が戻ることを祈念しております。